



いざさらば
我はみくにの山桜
母の身元にかえり咲かなむ

道神青

揮毫
中野府長

第5号

北海道
神道青年協議会
平成8年4月1日



一年を終えて

北海道神道青年協議会

会長後藤正洋

皆様のご支援とご協力を賜り、初年度の事業を終え、折り返しの時を迎えて戴いておりますことに心から感謝申し上げます。

昨年は所謂終戦五十年の年にあたり、道神青として恒例の事業の他に特別事業を組み、北方神青協会長の方針を側面から押し進める意味から、又、我々自身が理論武装するという意味からも、先の大戦の総括をさせて戴き、多くの会員の参加のもと新たな事業展開をさせて戴きました。

これまで、道神青は会員相互の親睦と自己研鑽を中心、諸先輩の努力の積み重ねの上にその輪を広げてまいりました。お蔭様で、

その成果が認められ、北方君を神青協会長として輩出することが出来たのであります。ひるがえて組織の内部を見渡しますと、多くの事業を開拓できる会がある

一方で、会員数の確保さえも難しい単位会もあり、自ずと従前の方途だけでは運営が困難になつて來ているのも事実であります。

このようなことから、現在、役員会の中に三つの部会を設け、斯

界における青年神職としての使命と役割を念頭に置きつつ、組織としての基盤をより一層強固なものとする為に、役員を挙げて改革に取り組んでいるところでござります。

本年度はこれまでにも増して事業等に見直しをかけ、幅広い議論の中から確固たる方向を見出してゆきたいと思いますし、この取り組みが会員個々の意識改革と、全體としての組織の活性化に繋がって行くものと確信しております。

ある哲学者が「脱皮できない蛇は滅びる」との言を残しておりますが、成長期から安定期に入ろうとする組織にとって、この実践は難しいものがあろうかと思ひます。道神青を支えているのは、大きな単位会組織ではありません。一人一人の会員の意識であり、会の趨勢はまさに我々の自發的な行動にかかっています。

本年の皆様一人一人の情熱に期待をさせて戴き、役員一同観意努力する所存でございますので、宜しくお願い申し上げご挨拶とさせて戴きます。

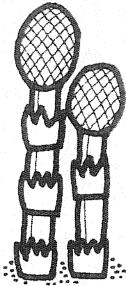


平成七年度定例総会

平成七年四月六日、北海道神社
府に於いて北海道神道青年協議会
平成七年度定例総会が開催された。

午後二時半開会、神殿拝礼、國
家齊唱、敬神生活の綱領に続き、特
会長挨拶、来賓の西川副庁長・中
村OB会々長・北方神青協会長に
それぞれご挨拶いただいた後議事
に入つた。議長には胆振支部の森
田会員が選出され、平成六年度会
務報告、同一般・事業会計決算の
承認を受けた。引き続き平成七年
度事業計画案及一般会計案等承認
され、最後に任期満了に伴う役員
の改選を(別記)行い閉会した。

午後六時より始まつた恒例の懇
親会は、特に北方次期神青協会長
の激励会と名をうち、多くの会員
が、北海道から初の全国会長を共
に喜び万全を期し支援していく事
を誓い合つた。



翌日、恒例の野球大会が月寒公
園グラウンドで行なわれた。当日は
冷たい雨の降るあいにくの天候で
はあつたが幸いにケガ人もなく無
事終了。優勝は後志青神チームが
六連覇を果した。



終戦五十年特別企画及

第十四回北海道神社庁杯
第十二回北海道神宮杯

争奪野球大会

平成七年十月二日大東亜戦争終
結五十年の意義ある年に当り、特
別企画の研修会が北海道神宮参集
殿に於いて行なわれた。

講師に國學院大學教授の阪本是
丸先生を迎へ、初めに検証大東亜
戦争「眞実と正論と主張」と題し
て講演をいただき、その後道神青
として初の試みとなる討論会を
行なつた。大東亜戦争に至るまで
の時代をさかのぼつて日本の動
き、世界の流れを踏まえ、戦争に
突入せざるを得なかつた必然性、
またその戦が世界に及ぼした意義
について熱心な討論が展開され、
参加者は貴重な時と体験を共有し
を誓い合つた。

主題に「北海道に於ける神社神
道の歩みと在り方」「近代北海道
神道史を踏まえて、神社神道の過
去から未来へと、その在り方を考
える」と題したこの研修会では、
一日目に北海道における神道分野
に精通されている國學院短期大学
教授秋元信英先生を講師に迎え、
明治、大正、昭和と仏教の立場と
神社神道の立場においての講義を

くりなど多彩な分野でのお話しに
合せ、現在までの祭りの在り方、
これから祭りの在り方は、との
提言もいただき、多種多様な地域
社会をもつ北海道で神明奉仕に
日々励まれている神職にとつて如
何に地域社会に於て、現代の日本
人が忘れてしまつた民族伝統の精
神理念や倫理的規範を模索し守つ
ていく事が大切かを認識したので
はないだろうか。

ともあれ、戦後五十年という意
義ある年に両日に渡り近代北海道
の歩みと在り方を受講生一同が聴
講できたのは、これから先の長い
青年神職にとって改めて神明奉仕
の重要性を考えさせられた有意義
な研修会であったのではないだろ
うか。

研修会開催

於 小樽国際ホテル

平成七年度の北海道神道青年協
議会研修会が、昨年十月二十四
日担当で小樽国際ホテルに於いて
道内各地から受講生八十五名が参
加して開催された。

二日目には、北海道に根ざした
独自の北方文化論を開催し、高い
評価を得て静修女子大学講師
森雅人先生を講師に迎え、現在か
ら未来への部分で「祭りと地域社
会」と題して講議をされ、神道の
域をはなれて北海道における地域
連携、人材育成、イベント型町づ
けなど多彩な分野でのお話しに

合せ、現在までの祭りの在り方、
これから祭りの在り方は、との
提言もいただき、多種多様な地域
社会をもつ北海道で神明奉仕に
日々励まれている神職にとつて如
何に地域社会に於て、現代の日本
人が忘れてしまつた民族伝統の精
神理念や倫理的規範を模索し守つ
ていく事が大切かを認識したので
はないだろうか。

いだき、また「大教宣言の説
教」と題して札幌、函館地方中心
に起こつた具体的な活動などを交
え北海道における神道の過去を探
つた。

神青協定例総会
北方丸出航!!

平成七年度の定例総会が四月十九日神社本庁大講堂に於いて代議員他一三〇名の出席のもと開催された。西高辻会長以下役員の任期満了に伴ひ、二月の臨時総会にて選出された北方新会長のもと新体制での船出となつた。

夏季セミナー

平成七年六月二十七日(土)二十八日
の二日間、神社本庁を会場に夏
期セミナーが開催され、道神青か
らも十二名の会員が参加した。

中央研修会

平成七年度の中央研修会は、昨年度阪神大震災の影響により急遽中止となつたが、その予定地であつた山口県湯田温泉で、去る二月二十六、七日に行なわれた。

今回は「日本人の心」とことは岡野弘彦國學院大學栢木短大学長の基調講演から始まり一日間研修が行なわれた。北海道からは二十

三名という地元山口県に次いでその参加者を得、さすが会長輩出地と他神青より称賛の声が上がつていてた。



当地は歌人中原中也の生誕の地

平成八年度神青協活動予定
○平成八年四年十八日

○平成八年十月十一日十二時
於神社本

夏期セミナー及
皇大神宮御鎮座二千年奉祝
○平成九年三月五・六日
於伊勢
中央研修会

於 熊本市
夏期セミナー及皇大神宮御鎮座
二千年奉祝行事、又中央研修会に
つきましては、後日御案内致しま
すので多くの皆様の御参加をお待
ち致しております。

ナウチャム

私の提言



かを考えてみた時、宮司さんは神様と氏子さんの中執り持ちなら、神職夫人又は女子神職は神社と氏子さん、宮司さんと氏子さんの橋渡し的存在だと思います。それを心においてこれからは今、自分に出来る事をさがし神職として女性としての人間性を高めていくにはどうしたらいいのかたくさんの方々から学んでいきたいと思います。皆さんに助けていただきながらこの先を進んでいきたいと思います。

支部神青活動について

網走神青会長 堀田 智彦

私が、神青会会长に就任以来早いもので一年が過ぎようとしています。思い起させば入会した当時は、会員数五名の会でしたが、現在は会員数八名に増え活動範囲も徐々に活発になって来ております。全会員一同が集まり一丸となつて活動をしたいと思い、毎年祭式・社頭講話・衣紋の各講習会を始め神青会のみならず支部員全員の親睦と融和を目標として支部長杯パークゴルフ大会、支部親睦会を開催し一応の成果を上げる事が

出来ました。

又、本年度中に起きましては、十勝青神会来会の折りに合同親睦会を開催し、両会の親睦並び貴重な意見交換の場を持てたり、道東五支部研修会の折りには、アトラクション全般を担当させて戴き、親睦の場を盛り上げる事が出来、とても嬉しく思っております。

まだ、活動の範囲としては狭いのですが、今後より一層切磋琢磨して会員一同が、氏子に対する啓蒙活動に通ずる講習会や勉強会を行い幅広い活動をして行きたいと思います。

慰靈祭奉仕を終えて

清水神社宮司 三澤 幸三

昨年は、大東亜戦争終結五十周年という節目の年であり、全国各地に於いて様々な慰靈祭や記念行事などが行なわれた。この意義ある年にあたり、十勝支部青年神職会では、平成七年度支部教化委員会共催事業として帯広市に鎮座する十勝護国神社（大野三代治宮司）の御例祭に祭員並びに伶人として会員十名が奉仕した。

御例祭は、七月二十五日、快晴のもと午前十時より、ご遺族・神社序十勝支部長・各界来賓等約五百人が参列、雅樂の奏樂のなか厳粛かつ盛大に斎行された。しかし、参列者の中には、杖を使われている方、両脇を抱えられてようやく玉串を奉獻される方なども多く見え、改めて御遺族の高齢化が進んでいることを痛感した。終戦記念日も間近なその頃、御遺族の五十年間の苦悩をよそにマスコミは、我が国が強いては英靈が犯罪者でもあるのかの如く片寄つた見方で、戦争責任問題や国家謝罪問題を流し続ける。愚の骨頂である。実習生としてはあるが靖国神社に奉仕経験のあるものとして、忿懣やるかたない思いが込み上げてくる。戦争体験のない戦後生まれが国民の多くを占め、教育現場からは、英靈に対する感謝の心や大東亜戦争の歴史的・民族的意義を正しく教える姿勢が欠落して久しい。

今こそ我々青年神職は英靈の御意志を伝える中執り持ちとして、國難に尊い命を捧げられた英靈に對し感謝の誠を尽くす心を、育てて行かなければならぬという使命にかられた。

【根室】	〔釧路〕	〔十勝〕	〔日高〕	〔北海道神社序日高支部〕	良野神社・下川神社・風連神社・美瑛神社・東神樂神社・大上川神社・神樂神社・劍淵神社・山神社・多寄神社・神居神社・上士別神社・雨粉神社・中川神社
お納め戴きましたご協賛に対し深く御礼申し上げます。今後とも、変わぬご支援を賜わります様、何卒宜しくお願ひ申し上げます。	厳島神社・鳥取神社・三吉神社・昆布森神社・厚岸神社・霧多布神社・川上神社・弟子屈神社・阿寒神社・嚴島神社・音別神社・厚岸真竜神社	北海道神社序日高支部	北海道神社・早来神社・鷗川神社	室蘭八幡宮・中島神社・本輪西八幡神社・樽前山神社・恵比須神社・伊達神社・大白山神社・壯督神社・稻荷神社・豊浦神社・刈田神社・湯沢神社・白老八幡神社・追分八幡神社・厚真神社・鷗川神社・早来神社	留萌神道青年会・宗谷青年神職会・網走神道青年会・紋別神道青年会・胆振
					〔留萌〕 留萌神道青年会 〔宗谷〕 宗谷青年神職会 〔網走〕 网走神道青年会 〔紋別〕 纹别神道青年会 〔胆振〕 胆振

青神道通信

後志青神の活動

後志青年神職会はチームワークと資質向上の努力（研修・雅楽・松前神樂の研修・スポーツ親睦）を活動の指針とし事業を遂行しております。

事業内容

一、定例総会の開催

二、學習会の実施と各種研修会参加

加

三、視察旅行の実施

四、家族レクリエーションの実施

五、慰労の場として又会員の家族

六、野球活動

七、忘年会の開催

八、道神青協事業への積極参加・協力の実践

九、その他

十、支部教化推進委員会との連係



小冊子の作成、雅楽、松前神樂の修得

九月二十六～七日 岩内神社参拝と泊原発見学 九名

八月、道神青野球大会参加

九月、終戦五十周年記念講演会

十月、道神青野球大会参加

十一月、道神青野球大会参加

十二月、道神青野球大会参加

一月、道神青野球大会参加

二月、道神青野球大会参加

三月、道神青野球大会参加

四月、道神青野球大会参加

五月、道神青野球大会参加

六月、道神青野球大会参加

七月、道神青野球大会参加

八月、道神青野球大会参加

九月、道神青野球大会参加

十月、道神青野球大会参加

十一月、道神青野球大会参加

十二月、道神青野球大会参加

一月、道神青野球大会参加

二月、道神青野球大会参加

三月、道神青野球大会参加

四月、道神青野球大会参加

五月、道神青野球大会参加

六月、道神青野球大会参加

七月、道神青野球大会参加

八月、道神青野球大会参加

九月、道神青野球大会参加

十月、道神青野球大会参加

十一月、道神青野球大会参加

十二月、道神青野球大会参加

九月二十六～七日 岩内神社参拝と泊原発見学 九名

八月、道神青野球大会参加

九月、終戦五十周年記念講演会

十月、道神青野球大会参加

十一月、道神青野球大会参加

十二月、道神青野球大会参加

一月、道神青野球大会参加

二月、道神青野球大会参加

三月、道神青野球大会参加

四月、道神青野球大会参加

五月、道神青野球大会参加

六月、道神青野球大会参加

七月、道神青野球大会参加

八月、道神青野球大会参加

九月、道神青野球大会参加

十月、道神青野球大会参加

十一月、道神青野球大会参加

十二月、道神青野球大会参加

一月、道神青野球大会参加

二月、道神青野球大会参加

三月、道神青野球大会参加

四月、道神青野球大会参加

五月、道神青野球大会参加

六月、道神青野球大会参加

七月、道神青野球大会参加

八月、道神青野球大会参加

九月、道神青野球大会参加

十月、道神青野球大会参加

十一月、道神青野球大会参加

十二月、道神青野球大会参加

平成七年度会務報告
(神青協関係を含む)

八月、道神青野球大会参加

九月、終戦五十周年記念講演会

十月、道神青野球大会参加

十一月、道神青野球大会参加

十二月、道神青野球大会参加

一月、道神青野球大会参加

二月、道神青野球大会参加

三月、道神青野球大会参加

四月、道神青野球大会参加

五月、道神青野球大会参加

六月、道神青野球大会参加

七月、道神青野球大会参加

八月、道神青野球大会参加

九月、道神青野球大会参加

十月、道神青野球大会参加

十一月、道神青野球大会参加

十二月、道神青野球大会参加

一月、道神青野球大会参加

二月、道神青野球大会参加

三月、道神青野球大会参加

四月、道神青野球大会参加

五月、道神青野球大会参加

六月、道神青野球大会参加

七月、道神青野球大会参加

八月、道神青野球大会参加

九月、道神青野球大会参加

十月、道神青野球大会参加

十一月、道神青野球大会参加

十二月、道神青野球大会参加

平成七年度会務報告
(神青協関係を含む)

八月、道神青野球大会参加

九月、終戦五十周年記念講演会

十月、道神青野球大会参加

十一月、道神青野球大会参加

十二月、道神青野球大会参加

一月、道神青野球大会参加

二月、道神青野球大会参加

三月、道神青野球大会参加

四月、道神青野球大会参加

五月、道神青野球大会参加

六月、道神青野球大会参加

七月、道神青野球大会参加

八月、道神青野球大会参加

九月、道神青野球大会参加

十月、道神青野球大会参加

十一月、道神青野球大会参加

十二月、道神青野球大会参加

一月、道神青野球大会参加

二月、道神青野球大会参加

三月、道神青野球大会参加

四月、道神青野球大会参加

五月、道神青野球大会参加

六月、道神青野球大会参加

七月、道神青野球大会参加

八月、道神青野球大会参加

九月、道神青野球大会参加

十月、道神青野球大会参加

十一月、道神青野球大会参加

十二月、道神青野球大会参加

お知らせ

北海道神道青年協議会研修会

主題

『今こそ日本人の気概を』

——日本人が進むべき道を求めて

——謝祭参列 後藤会長 植田副会長

——内田副会長 近藤事務局長

——奉仕一兼田副会長

——整委員会 森組調委員 植田指名理事

——藤山事業委員会

——六月十四日 第二回神青協組織調査

——六月十六日 第二回神青協役員会

——六月二十七日 第二回神青協役員会

——七月二十六日 第三回神青協事業

——六月二十八日 神青協夏期セミナー

——(神社本庁) 北方神青協会 長他十一名

——七月六日 札幌護國神社例祭参列

——七月二十九日 第二回道神青三役会

——七月二十五日 第三回道神青三役会

——八月二十一日 第二回神青役員会

——八月二十二日 第二回神青役員会

——八月二十三日 第二回神青役員会

——八月二十四日 第二回神青役員会

——八月二十五日 第二回神青役員会



無限の価値創造を求めて
胆振青年神職会 森田 教義

神社神道は、稻作とともに起こり稻作文化とともに発展してきましたが、古代から江戸時代までの農業人口は八十五%以上占めていたのに対し、現在の専業農家は三%以下まで減ってしまいました。その一方で、個人の人生儀礼や法人企業の儀式など時代の推移とともに神々への深い信頼と崇敬がみられます。これは、長い伝統の結果というよりも、六人部是香著「産須那古伝抄」に、「産須那ノ社は、生産の根元、顯世の守護、没後の使命に至るまで、悉くあずかり掌り……」いただく重要な部分を産須那神に担つていただいているお陰であることの結果だと思います。

アプローチをせずとも正月には、

国民の大半が初詣に出かけます。しかし、この「最大多数の最大幸福」のみを今後も追い求めていいのだろうかという疑問が湧いてきます。

これまで、一方指向的な権威に基づいて提供されたもの

の考え方から、神社も寺も同じという知識しかないあるいは、神道になんの知識もない世代が台頭してくる。これから時代をむかえる

為には、各個人への教化と多様な価値観の尊重に基づいたものの考

え方が大切に思います。

なぜならば、「最大多数の最大幸福」を実践してきたのは神社界のみならず、すべての業界がそう

であつたし、現在は医療業界をはじめあらゆる業界でそれを見直した方向に進んでいるからです。

(三) 中央から遠距離である事

四) 交流の参加が困難な事

(五) 少数会員の支部は、支部一名の理事には問題がある

代の流れに逆らい、今までの通り進めていける保証は無いのです。

あるとすれば、それは人間の力

北海道神社宗谷支部としての研

修などがあるだけで青年神職とし

ては特にありません。

道神青で計画する行事やイベント等の参加についても、経費、日程

面からも困難性があり、個々の出

道神青と

僻地青年神職を考えて見る

宗谷支部 高岡紀恵子

道神青の内容「使命・活動状況等」も承知せぬまま、本年度理事の末席をけがす事になりました私

ですが、支部の活動状況とか特色と申されましても、通信の原稿材料は全くありません。しかし誌面をお借りし、道神青と僻地青年神

職について、特に私個人の考え方の相違点や、理事としての心の負担等を申し述べたいと思います。

(一) 当支部内の青年神職が少ない事。

来年度から「二名」打合 内田副会長 近藤事務局長

九月二十六日 第四回道神青三役講演会 後藤会長他七十四名

十月二日 道神青終戦五十年記念野球大会 会員七十名

十月五日 第五回神青協役員会北方神青協会長植田指名理事

十月二十四～五日 道神青研修会(小樽) 八十五名 道神青部会初会議

十一月二十日 神青協渉外委員会 第五回事業委員会 北方会長

十一月二四日 第六回神青協役員会 植田指名理事 藤山事業委員会

十二月四日 第五回道神青三役会 第五回事業委員会 北方会長 後藤・植田理事

(平成八年)

一月三十日 第五回道神青三役会 第五回事業委員会 北方会長 後藤・植田理事

二月二十六日 第七回神青協役員会 第五回組織調整委員会 第五回事業委員会 北方会長 後藤・植田理事

二月二十六～二十七日 中央研修会 第五回道神青役員会 第五回組織調整委員会 第五回事業委員会 北方会長 後藤・植田理事

三月十六日 第四回道神青役員会 第五回組織調整委員会 第五回事業委員会 北方会長 後藤・植田理事

三月二十六日 第四回道神青役員会 第五回組織調整委員会 第五回事業委員会 北方会長 後藤・植田理事

七月二十五日 第三回神青協組織調整委員会 森組調委員

八月二～三日 第四回神青協役員会 北海道護国神社報恩感謝祭 後藤会長参列 近藤事務局長他会員四名奉仕

八月六日 北海道護国神社報恩感謝祭 後藤会長参列 近藤事務局長他会員四名奉仕

八月三十日 第一回神青協事業委員会 講演会 後藤会長他七十四名

九月五日 第五回神青協事業委員会 北方神青協会長植田指名理事

九月十九日 終戦五十年特別企画会 藤山事業委員会

十月二十四～五日 道神青研修会 打合 内田副会長 近藤事務局長

九月二十六日 第四回道神青三役講演会 後藤会長他七十四名

十月二日 道神青終戦五十年記念野球大会 会員七十名

十月五日 第五回神青協役員会 北方神青協会長植田指名理事

十月二十四～五日 道神青研修会(小樽) 八十五名 道神青部会初会議

十一月二十日 神青協渉外委員会 第五回事業委員会 北方会長

十一月二四日 第六回神青協役員会 植田指名理事 藤山事業委員会

十二月四日 第五回道神青三役会 第五回事業委員会 北方会長 後藤・植田理事

(平成九年)

一月三十日 第五回道神青三役会 第五回事業委員会 北方会長 後藤・植田理事

二月二十六日 第七回神青協役員会 第五回組織調整委員会 第五回事業委員会 北方会長 後藤・植田理事

二月二十六～二十七日 中央研修会 第五回組織調整委員会 第五回事業委員会 北方会長 後藤・植田理事

三月十六日 第四回道神青役員会 第五回組織調整委員会 第五回事業委員会 北方会長 後藤・植田理事

三月二十六日 第四回道神青役員会 第五回組織調整委員会 第五回事業委員会 北方会長 後藤・植田理事

三月二十六～二十七日 中央研修会 第五回組織調整委員会 第五回事業委員会 北方会長 後藤・植田理事

三月二十六日 第四回道神青役員会 第五回組織調整委員会 第五回事業委員会 北方会長 後藤・植田理事

三月二十六～二十七日 中央研修会 第五回組織調整委員会 第五回事業委員会 北方会長 後藤・植田理事

席は別として支部としての諸活動、
更に道神青の行事参加も無理である事の認識をいただきたいと思
います。

今、思うこと

南幌神社宮司 板垣 朗

現代の日本は、自由の保証され
ている国である。

言論の自由、信教の自由、思想、
表現の自由と言ふように、あたか
も何をしても自由とれるような
錯覚さえ見える。

自由＝身勝手の、責任のなさ
さえ感じるのは、私ひとりだろう
か。古く、日本の子供を持つ親心
は子供のために犠牲になることなど、何とも思わない気持ちがあつ
た。子供が重病になつたとき、寒
い真夜中でも神社や寺にお百度詣
りでも何でもするように、日本の
母は、子供の危機には身を呈して
守ろうとする強さがある。西洋的
宗教から見れば、愚かしい行為に
映るのだと思う。

子供を持つ親には理屈はいらな
い、西洋的にみれば無知かもしれない、けれどもそれは、子供のた
めには喜んで死ねると言う親心で
ある。

これは社会においても同じであ
り、献身的精神、社会のために又

席は別として支部としての諸活動、
更に道神青の行事参加も無理である事の認識をいただきたいと思
います。

恩人のために尽くす事尽くせる事
が、結果的に人も自分も守ること
になると思う。

今、新人類と証する人たちが、
ほんのすこしの親心を持てば身勝
手さは消えるのだろう。

白衣・襦袢セット（頒布価格12,000円）

■白衣2枚・半襦袢4枚のセット

白衣はポリエステル65%、綿35%、襦袢は綿100%（袖・衿の部分はブロード）
で、白衣2枚・襦袢4枚のセットです。

■夏物と冬物

従来の冬物に加え、薄手の生地を使用した夏物も御用意致しました。

■女子神職用

好評につき女子神職用も頒布致します。

年末年始の勤労者用にもお使いいただけます。

■フリーとLLの2サイズ

◆フリー 身長175cm以下 ◆LL 身長175cm以上

着丈130cm 着丈136cm

お申し込みの際は、必ず夏物/冬物、男/女、サイズ等の種類をご指定下さい。

宮印

（21本入・頒布価格12,000円）

■豊富な祈願名

ご要望に応え、祈願名を21種に増やしました。

●初富詣●七五三詣●学業成就●合宿祈願●安産祈願●厄除祈願

●家内安全●病気平癒●身体健全●必勝祈願●開運招福

●心願成就●旅行安全●交通安全●社運隆昌●商売繁盛●工事安全

●職場安全●海上安全●大漁祈願●新年祈願

*印印は66×18ミリのゴム製。

神青協事業委員会頒布品

北海道神道青年協議会役員

会長 後藤正洋 (札幌)
副会長 植田淳一 (空知)

内田悟 鎌田告人 (札幌)

近藤摩人 (札幌)

田湯直宜 (札幌)

花田和彦 (札幌)

五十嵐力 (札幌)

板谷一弘 (札幌)

板垣朗 (札幌)

太田任 (札幌)

白取敏昭 (札幌)

高岡紀恵子 (札幌)

堀田智彦 (札幌)

西川純夫 (札幌)

森田教義 (札幌)

酒井栄幸 (札幌)

三澤幸三 (札幌)

原千佳志 (札幌)

宮腰隆 (札幌)

松永美継 (札幌)

大西祥太 (札幌)

神青協出向役員・委員

全国会長 北方幸彦 (札幌)

地区理事 後藤正洋 (空知)

指名理事 植田淳一 (札幌)

組織調整委員 藤山敬廣 (札幌)

事業委員 森泰文 (札幌)

遙かに見る柳の梢も心なしか赤
く霞を帯びて、自然はまごうこと
なき春へと胎動している今、人は
足元のぬかるみに囚われて季節の
移ろいにも気づくことなく、時を
消費するのみの世相の中、少なく
とも我々神職は大らかなゆとりを
持つて日々歩むことが、神の中執
り持ちとしての命を全うすること
と感じられる今日この頃です。

昨年は大東亜の大御戦終結五十
年という年にあつて、各地で慰靈
祭や講演会が数多く行われました
が、今後も絶え間ない祈りと、弛
むことない祀りをつづける事を誓
いつつ通信第五号をお届け致しま
す。

尚、貴重なご寄稿をいただきま
した女子神職会の皆様をはじめ、
役員の皆様に厚くお礼申し上げま
す。

御社頭繁忙の季節を迎へ、皆様
の毎々のご活躍をお祈り申し上げ

